

恋愛物語を観た！

内藤 真理子

ミュージカル「東京ラブストーリー」を、池袋のプリリアホールで観て来た。たまたま行くつもりだった人に用事が出来たので、S席の券を頂いたので。きれいな劇場でほとんどの席が埋まっている。思わず幸運を噛みしめた。

原作は、柴門ふみの漫画で、以前（1991年）テレビドラマで大ヒットしたそつだ。

舞台上では若いカップルがそれぞれに二人だけの世界を作っている。何ととっても「東京ラブストーリー」という題だもの、この演出に納得。

でも私にとつては若すぎるかしら？ ついて行けるかしら……。

前宣伝で、このミュージカルは、主演が「鎌倉殿の十三人」の源実朝役で出演していた柿澤勇人（はやと）だということで、話題になっていたそつだ。

だが、主要メンバーはダブルキャストで、私が見た主演の永尾完治役は、残念ながら柿澤ではなく、濱田龍臣が演じた。

物語は、愛媛県の企業の東京支社に転勤になった永尾完治が会社の業績を上げるために頑張っている所から始まる。完治と仕事を組むことになった天真爛漫な帰国子女のリカの役は、唯月（ゆづき）ふうか。この人が上手かった！

愛する女の心の動きを迫力のある歌唱力で圧倒する。

その他に、完治の高校の同級生でプレイボーイの医者の上上、それに完治が高校時代好きだったさとみ。その四人の主要メンバーを中心に恋愛物語が展開する。

何ととっても恋愛ものには、三角関係やすれ違いがつきもの。繰り返して出てくるそんな山場も、さすがはミュージカル、どの役者も歌と踊りの演出で登場人物の言いたいことや性格を如実に語ってくれる。わかりやすく楽しくかった。

原作の漫画が描かれたのは、バブル期だったが、今回はコロナ禍前の現代を舞台にしたそつだ。見ていて安心をするストーリーと結末で、いつの時代も人の心は変わらないのだというのが、正直な感想だった。

演出にも演技にもパワーがあつて、見終わった時には私の胸の中はワクワクしていた。少し若返ったかもしれない。